

「夏の星座」とか「冬の星座」というのは、その季節の20時～22時頃に南中している星座をさします。恒星は時間がたつと、西に向かって動いて見えますので、その季節以外に観望することも可能です。たとえば、夏の星座の「さそり座」も、冬の早朝に見ることができます。

「春の星座」といえば、「おとめ座」「しし座」「かに座」などが挙げられます。これらの星座が有名なのは、「スピカ」(おとめ座)や「レグルス」(しし座)といった目立つ一等星を有するからです。かに座は暗い星ばかりですが、星占いに登場する「黄道十二星座」の一つなので、やはり有名です。しかし、一等星も有せず、黄道十二星座にも含まれない星座も忘れてはいけません。

それが「からす座」と「こっぷ座」の2座です。からす座は明るい星はありませんが、同じような明るさの星

がつくる「いびつな四角形」でよく目立ち、東京でも見つけられます。一方「こっぷ座」はからす座の右側にある8個の星の並びなのですが、暗い星ばかりで星空で形を思い浮かべるのは困難です。「こっぷ座なんてあったの?!」と言われることが多く、非常に不遇な星座の一つでしょう。しかしこのこっぷ座、実はオリオン座と同じぐらいの大きさがあります。今の時期に南の夜空を見たら、東西に長細いうみへび座の背に乗った、2つの星座を見つけてみてください。

(2024年5月上旬/北軽井沢)

